

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520029

研究課題名（和文） 東アジア地域の思想・文化におけるルサンチマン研究

研究課題名（英文） Ressentiment research in thought and culture of East Asian region

研究代表者

菅野 孝彦（KANNO TAKAHIKO）

東海大学・総合教育センター・教授

研究者番号：50221908

研究代表者の専門分野：倫理学・倫理学史

科研費の分科・細目：哲学・哲学・倫理学

キーワード：ルサンチマン、怨霊信仰、恨の思想、報怨以德の思想

## 1. 研究計画の概要

東アジア各地域・国家間のあつれきは、行為主体の他者に対する感情・思想の問題にほかならない。本研究は、行為主体の他者に対する感情・思想の問題を、ルサンチマン概念を切り口として考究する。その際、ニーチェ思想におけるルサンチマン概念をルサンチマン概念の機軸として位置づけ、東アジア各地域における他者に対する行為主体の感情・思想を考える。各地域を代表する他者に対する行為主体の感情・思想として、日本においては「怨霊信仰」を、朝鮮においては「恨の思想」を、中国においては「報怨以德の思想」をそれぞれ手がかりとする。また、現代日本が抱える問題についての文明論的診断と、それに基づく具体的提言につなげ、現在進行形で存在する東アジア地域における政治的問題、経済的問題解決への一里塚となることを明らかにすることをめざす。

## 2. 研究の進捗状況

本研究課題の第三年度において、ルサンチマン概念の確定に関してはフリードリッヒ・ニーチェやマックス・シェラーといったルサンチマン概念の主要な思想家だけでなく、ルートヴィヒ・フォイエルバッハ、オンツェント・ファン・ゴッホら広範な哲学者・思想家群等に目を向け、ルサンチマン概念のさらなる深化を、また、このルサンチマン概念の東アジア地域における受容や変容を明らかにするに当たり、日本や朝鮮半島・中国に区分し、研究を進め、さらには、日本や朝鮮半島におけるルサンチマン概念の深化及びその受容や変容に関する論文を著すこととして、本おむねという点で、順調に進展していると思われる。

この観点からルサンチマン研究を推進し、その際、恨思想の表れを政治構造、社会構造、文化構造、宗教領域において分析した。たとえば、政治構造においては、権力者たる民権者との間に、社会構造においては、富める者と貧しき者の間や両班・中人・民賤をみ分けた。さらに、人々の言動を道徳に還元し、その道徳志向性の関わりで思想を捉え、特微を朝鮮半島に受容された儒教文化の二点に論議の焦点を絞り、この文化圏におけるルサンチマン概念のあたっては、「報怨以德の思想」なる『老子』及び春秋戦国期の儒教思想を、蘇州、南京地域に赴き資料収集を行い、論議への準備を進めている。

## 3. 現在までの達成度

②おむね順調に進展している。

(理由)

本研究は、フリードリッヒ・ニーチェやマックス・シェラーといったルサンチマン概念の主要な思想家だけでなく、広範な哲学者・思想家群等に目を向け、ルサンチマン概念のさらなる深化を、また、このルサンチマン概念の東アジア地域における受容や変容を明らかにするに当たり、日本や朝鮮半島・中国に区分し、研究を進め、さらには、日本や朝鮮半島におけるルサンチマン概念の深化及びその受容や変容に関する論文を著すこととして、本おむねという点で、順調に進展していると思われる。

## 4. 今後の研究の推進方策

東アジア地域の思想・文化におけるルサンチマン研究の最終年度としては、第一に中国

文化圏におけるルサンチマン概念の受容と変容に関して論攷化をめざしたい。それにあたっては、中国における「報怨以德の思想」を手がかりに考究をすすめるが、典拠となる『老子』第 64 章にある「怨みに報ゆるに徳をもってす」から、怨みに怨みをもつてのぞむならば生じるであろう怨みの連鎖を断ち切った言葉といわれる、1945 年 8 月 15 日中華民国政府総統蒋介石の布告までを俯瞰し、中国思想にみられるルサンチマン概念の受容と変容を考える。次に、日本・朝鮮半島におけるルサンチマン概念の受容と変容の考究をさらに進展させる。日本におけるルサンチマン概念の変容として「怨霊信仰」の研究を主題化してきたが、平安末期・鎌倉初期以降の時代において論攷化を試みたい。朝鮮半島に関しては、朝鮮王朝の儒教受容と事大主義の結びつきのもとで、ルサンチマン概念の変容を考究し論攷化を試みたい。さらに、現在進行形で存在する東アジア地域における政治的問題、経済的問題解決への一里塚となるべく、文明論的診断とそれに基づく具体的提言につなげたい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 菅野孝彦、フィンセント・ファン・ゴッホにみる絵画と思索との架橋、筑波大学哲学・思想論叢、26 号、1-13、2008、査読有
- ② 菅野孝彦、L. フォイエルバッハ思想の意義と限界、東海大学総合教育センター紀要、28 号、45-54、2008、査読無
- ③ 菅野孝彦、東アジア地域の思想・文化におけるルサンチマン研究、平成 20 年度科学研究費報告、1-14、2009、査読無
- ④ 菅野孝彦、三宅光一、朝鮮半島における恨思想とルサンチマン、東アジア地域の思想・文化におけるルサンチマン研究、2-10、2010、査読無
- ⑤ 菅野孝彦、朝鮮半島における儒教受容、東アジア地域の思想・文化におけるルサンチマン研究、11-18、2010、査読無

[学会発表] (計 2 件)

- ① 菅野孝彦、経済行為への非経済的要因の影響、ビジネス・エシックス研究会、2008 年 7 月 27 日、学士会館
- ② 菅野孝彦、日本におけるルサンチマン概念について、東海大学文明研究所、2009 年 7 月 31 日、東海大学